

金田一
耕助の
足跡

そのルーツから
最期まで

二松學舎大学資料展示室(九段キャンパス2号館1階)

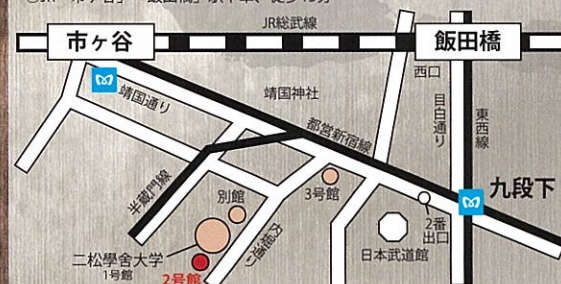
日曜休館

問い合わせ先



〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

○地下鉄 東西線・半蔵門線・新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
○JR「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分



※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

よれよれの着物にくたびれた帽子をかぶり、興奮すると言葉につまって頭をやたらとかきまわす。外見はおよそさえないにもかかわらず、人の気持ちをなごませる奇妙な魅力があり、すぐれた推理力で難事件を解決する——。みなさんもおなじみの金田一耕助は、日本で最も名の知られた名探偵と言えるでしょう。1946(昭和21)年、岡山に疎開していた横溝正史によって生み出されて以来、金田一耕助は、長きにわたって活躍を続け、登場作品は全部で77作を数えます。

二松學舎大学では創立135周年を記念し、企画展示「金田一耕助の足跡—そのルーツから最期まで—」を行います。

本学所蔵の横溝正史旧蔵資料の中から、金田一耕助に関わるものを厳選し、名作誕生の現場に迫ります。デビュー作『本陣殺人事件』の草稿、代表作『獄門島』・『八つ墓村』・『犬神家の一族』のメモ・草稿・原稿、トリッキーな短編『首』・『香水心中』の改稿版、最後の登場作『悪霊島』の創作ノート・原稿などの貴重な自筆資料を始めとして、少年時代から作者が愛読し、創作のヒントとした洋雑誌やポスター・スチール写真・シナリオなど珍しい映画関連資料も展示します。初公開の資料も多く、金田一耕助、そして横溝正史の歩みを知る絶好の機会です。多数のご来場をお待ちしています。

金田一耕助の略年譜

- 1913(大正 2)年 東北地方に生まれる
- 1931(昭和 6)年 地元の中学を卒業後、私立大学入学のため上京
- 1932(昭和 7)年 大学を退学し、渡米(サンフランシスコ)
- 1937(昭和12)年 「本陣殺人事件」(於:岡山)
- 1940(昭和15)年 従軍して中国大陸へ(終戦をニューギニアで迎える)
- 1946(昭和21)年 「獄門島」(於:瀬戸内海)
- 1948(昭和23)年 「八つ墓村」(於:岡山)
- 1949(昭和24)年 「犬神家の一族」(於:長野)
- 1955(昭和30)年 「悪魔の手毬唄」(於:岡山)
- 1967(昭和42)年 「悪霊島」(於:瀬戸内海)
- 1973(昭和48)年 「病院坂の首縊りの家」(於:東京)を解決
その後、渡米(ロサンゼルス)、消息不明となる



愛読した洋雑誌

『犬神家の一族』シナリオ



『八つ墓村』原稿

横溝正史

1902(明治35)年～1981(昭和56)年。神戸市に生まれる。神戸二中を卒業し、第一銀行に勤務。在学中より、外国の探偵小説を読み漁る。1921年大阪薬学専門学校に入学。同年雑誌「新青年」に最初の作品「恐ろしき四月馬鹿」を発表。1924年大阪薬学専門学校を卒業し家業の薬種業を継ぐ。1926年に最初の短編集『広告人形』を刊行、同年に江戸川乱歩の招きで上京し博文館に入社。雑誌「新青年」等の編集を担当する。1932年博文館を退社し文筆専業へ。信州での闘病生活を経て、妖艶耽美的探偵小説を次々に発表。

1946年『本陣殺人事件』に金田一耕助が初登場。1948年同作品で「第1回探偵作家クラブ賞長篇賞」を受賞。以後、金田一耕助は、江戸川乱歩の明智小五郎と並び、日本の探偵小説の著名な探偵となった。

探偵作家クラブ賞
當選者金田一耕助君は、貴会「本陣殺人事件」を一九四七年度長篇探偵小説の最優秀の作として推薦し記念品を贈呈す
記念品 銀製洋皿一組
副賞 金賞賞状
昭和二十三年二月二十八日
探偵作家クラブ会長 江戸川乱歩
横溝正史 殿

第一回探偵作家クラブ賞 賞状